

近年増える潰瘍性大腸炎とは

木暮院長の患者サポート ③〇

下痢や血便などの症状があり、発病から長期間経過すると大腸がんのリスクが高まる「潰瘍性大腸炎」。国の指定難病でもあるこの病気に
ついて日本消化器病学会専門医の木暮悦子院長（木暮クリニク）に話を聞いた。

「大腸粘膜が炎症し、びらんや潰瘍ができることで症状が現れます。原因は明らかになっていません。免疫反応の異常や遺伝的な要因、食生活など

が複雑に絡み合い発病すると考えられています」と木暮院長。下痢や粘血便などのほか、強い腹痛、発熱、体重減少などを伴う場合も。発症年齢は20代がピークだが、40代以降でも増えているという。潰瘍性大腸炎は、症状が強く現れる「活動期」と症状が治まる「寛解期」

を繰り返すことが特徴だ。「寛解期でも再び症状が現れないよう、治療を続けることが重要です」と木暮院長。また「治療を続ければ、多くの方が寛解期を維持できます」とも。炎症は直腸から始まり「直腸炎型」「左側大腸炎型」「全大腸炎型」の3タイプに分けられる。

問診、大腸内視鏡検査などを実施し、他の病気と区別していく。治療は炎症を抑えるアミノサリチル酸製剤を中心に、必要に応じてステロイド、

免疫抑制剤などを使用。また、発病から長期間経過すると大腸がんリスクが高まるため定期的な内視鏡検査が必要だ。「まずは専門医へご相談を」

木暮クリニック

胃腸内科 消化器内科 内科 胃・大腸内視鏡

検査は
平日・土曜に
行っています



診療時間	内科	消化器内科	胃腸内科	大腸内視鏡
9:00~12:00	●	●	●	●
16:00~18:00	●	●	●	●

TEL.044-870-7710

休診日 木曜・日曜・祝日

川崎市高津区下作延2-4-3
溝の口メディカルモール3階

http://www.kogure_clinic.jp



木暮悦子院長

